

1	名古屋	桃山小学校	カメヤマ ハルオ
			亀山 治夫
分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）

## 単元内自由進度学習を取り入れた物語を読むことの指導（小6年）

### 1 はじめに

私は、児童を「自律した学習者」に育てたい。私の考える「自律した学習者」とは、「自ら個の課題を設定し、自己調整して課題解決に向かうことができる児童」のことである。先行きを見通しづらい現代社会を生きる児童には、個の課題を自己調整しながら解決し、未来を切り開く力をもってほしい。

これまで私が行ってきた「学級全体で考えた学習課題について協働学習を通して課題解決に向かう」学習方法は、児童が「読みを深める」ために効果的で大切な進め方である。私の考える「読みを深める」とは、「一読では分からなかったことを、読みの視点を基に読むことで、人物の心情や場面の様子を捉えることができる」ことである。

この学習方法に加え、児童一人一人が個の課題と向き合い、学びの自己調整をしながら追究する「単元内自由進度学習」を取り入れることで、「自律した学習者」に育てていきたい。

本実践では、単元を通して自由進度学習で進めるのではなく、単元の導入と終末に一斉授業、展開に自由進度学習を行う「単元内自由進度学習」に取り組む。導入では、単元の概念的な部分を一斉授業で学び、児童の興味関心を高め、個の課題を設定する。展開では、設定した課題を自己調整しながら課題解決に向かう。終末では、学びを全体共有したり、練り上げたりする実践とする。

本学級には、物語を読むことの学習で、個人読みの時間では自分で読みを深められず、教師が個別に支援することで読みを深めることができる児童がいた。また、協働学習で意欲的に友達と話し合うことで読み取れたと思いついでしまい、学級全体で読み取りを共有した時には、自分の力で発言できない児童がいた。そこで、年間を通して、**重点①**自ら個の課題を設定する、**重点②**自分の力で課題に対して考え抜くという2つの重点に基づいた手立てを考え、実践を行った。

### 2 実践計画

- (1) 対象 第6学年 28人
- (2) 手立て

**手立て① 「読み取り秘伝の書」で個の課題を設定**

児童が個の課題を設定するために、「読み取り秘伝の書」を示す。これは、物語を読むときの3つの観点と、観点ごとの読む視点を示したものである。それに沿って個の課題を選択して、読み進めることができるようにする。物語を読み深めるためのヒントを示すことで、個の課題を設定できるようにする。

**手立て② 「SR（自己調整）タイム」で課題を追究する時間を設定**

児童が自分の力で課題に対して考え抜くために、「SRタイム」を設定する。（自己調整=Self-Regulation）これは、個の課題に対してできたこと、できなかったことを振り返り、次時の目標を設定する時間である。毎時間、本時の振り返りを行うことで、読むことに対するメタ認知する力を高め、次時にすべきことの見通しをもって学びの自己調整ができるようにする。

### 3 授業実践 I の内容

- (1) 実施時期 令和5年6月
- (2) 教材 「川とノリオ」
- (3) 実践のねらい

情景や行動の描写、色彩を表す語や比喩、反復などの優れた表現を味わうとともに、人物の心情を想像したり、表現についての感想を共有したりすることができるようにする。

(4) 単元の流れ（7時間完了）

1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時
一斉授業		自由進度学習			一斉授業	

(5) 実践の様子

手立て① 「読み取り秘伝の書」で個の課題を設定

1時間目の導入時、単元の流れを説明し、「川とノリオ」の3・4・5時間目は、児童だけで学習を進めることを伝えると、児童は学習意欲を示した。その後、教師の範読を聞き初発の感想を書き、感想の交流をした。

2時間目は、物語を読むときの3つの観点「人物」「表現の工夫」「話のつくり」について理解した。ここで「読み取り秘伝の書」を配布し、観点ごとの読む視点を示し、物語の読み深め方についても理解することができた。【資料1】

児童は、「人物や表現の工夫については、だいたい理解できたから、話のつくりについて読み深めてみたい。」「表現の工夫が多く使われている物語だと思ったから、表現の工夫について詳しく読み深めてみたい。」など、自由進度学習で取り組む個の課題を設定した。

3時間目からは個の課題を解決するために「読み取り秘伝の書」を参考にして、単元内自由進度学習に取り組んだ。話し合いたい時に話しやすいように、観点ごとにグループを作って取り組んだ。

ある児童は、「話のつくり」の読む視点を参考に、一人で黙々と読みを深めた。「時代背景」の視点では、当時の時代背景についてタブレットを活用して検索し、戦争の状態と作品の叙述に注目し、理解を深めた。また、「主題」について考えている時には、グループの仲間と活発に話し合った。自分で追究したい部分は自分一人で追究し、仲間と協働したい部分では協働して課題解決に向かう姿が見られた。私は、このような児童の学習姿勢が、自由進度学習の中で大切になってくると感じ、学級全体に「自分で学びを深める姿」「困った時は協働する姿」を認める声掛けをした。その後、自ら学習方法を選択して進める児童が増えた。

また、ある児童は、「人物」の読む視点を参考に読みを深めた。「登場人物の行動」の視点では、「ぐずって泣いた」行動から「悲しんでいる」様子を読み取ることはできたものの、直接的でない描写の多い本作品の読み取りに苦戦していた。すると、「人物」の観点を選んだグループの友達が声を掛け、一緒に「登場人物の様子」や「会話」などの別視点から、「人物」についての読みを深める姿が見られた。

6時間目、本文の全文を拡大紙に印刷したものに、自由進度学習で追究した内容を書き込んだ。7時間目には、児童同士で他グループの読み取りについて質問し合い読みを深めた。また、物語の核心に迫る読み取りについては、全体で練り上げる時間を取り、児童の読解を助けた。

手立て② 「SR（自己調整）タイム」で課題を追究する時間を設定

毎時間の終末には、一枚の振り返りカードを用意し、本時に設定した個の課題のできたこと、できなかったことを振り返り、次時の目標を書き込めるようにした。【資料2】

ある児童は、3時間目の振り返りで、「3種類の表現の工夫について読み取ることができた。次時は本時にできなかった反復に注目して読みたい。」と記述した。課題に対してできたこと、できなかったことを振り返り、次時の目標をもって課題解決に向かう姿を読み取ることができた。私は、このような学習姿勢が、「個の課題を自己調整しながら解決する」姿であると感じ、学級全体に伝えた。その後、このような、学びを自己調整する振り返りが学級全体に広がっていった。

ある児童は、単元全体の振り返りで、「グループで読みを交流したり、他グループの発表を聞いたりすることで、自分の気付かなかった新たな発見があった。」と、共有した学びを個の読みに生かすことができていた。

また、ある児童は、「行動から悲しい気持ちがあった。〇〇さんが教えてくれて、ノリオの心情がよく分かった。」と記述した。協働学習を通して読みを深めた成果を実感できていてよかった。し

「人物」の読む視点

登場人物の行動	考え
登場人物の様子	性格
会話	気持ち

「表現の工夫」の読む視点

比喩	擬人法	倒置法	情景描写
反復	色彩表現	ダッシュ（ー）	対比
擬態語・擬声語	体言止め	リーダー（…）	対句

「話のつくり」の読む視点

時間	時代背景
場所	山場
場面の変化	主題

【資料1】読み取り秘伝の書

かし今回は、周りの友達が自分の困り感に気付いてくれたことで、課題解決につながっていた。私は、困った時、自分から周りの友達に相談しやすくなる手立ての必要性を感じた。

時	本時の目標	できたこと・できなかったこと・ 次時の目標	本時のがんばり度 (◎・○・△)										
1	表現の工夫を中心とした視点で調べる。	川とリリオの中にある表現法はそれぞれあった。T:ハ <table border="1"> <tr> <td>表現法</td> <td>2.9</td> <td>3.9</td> <td>4.9</td> <td>5.9</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> </table> 気になったもの5つ	表現法	2.9	3.9	4.9	5.9	数	5	3	9	1	○
表現法	2.9	3.9	4.9	5.9									
数	5	3	9	1									
2	川とリリオの情景描写や色彩表現の交差について調べる。 前回は調べた時色彩表現に色味が結びついていて面白かったから!!	• はじめの「早春」から水が少い場面が変わる時 P86 1~2行目「お母さんへ行きました」ここが情景! 他にも夕焼けの赤と水は「早春」からの時間口がわかる! • P88 5~6行目「水が少く〜銀色の水〜」水を銀色と表現して、おもしろい強調しているのかも!! (色彩表現)	◎										
3	グループのみんなで考えを交流し、自分の考えをまとめる。	みんなの意見をまとめて、ここにその表現がある意味や、その表現によって分かる新しいイメージなどが分かってきた!!	◎										

【資料2】児童の振り返りカード

本時の学習を振り返り、次時の目標をもつことができている。

単元全体の学習を振り返り、自分の考えをもつことができている。

母ちゃんにおきたことを何も知らなかった小さなリオは大きくなるにつれ知っていく。でもそのことを考えることもたまっている。その心情にはなんともいえない悲しさがあつた。リリオの気持ちを思うと悲しい気持ちになつた。戦争のように無意味に人の命をうばうのはよくない。

(6) 実践の成果 (○) と課題 (●)

- 「読み取り秘伝の書」を示したことは、物語を読み深めるためのポイントが明確になり、児童の個の課題設定に有効であった。
- 「SRタイム」で課題を追究する時間を設定したことで、読むことに対するメタ認知する力を高め、次時を見通し、学びの自己調整をする力を育むことができた。
- 自己調整する内容を一枚の振り返りカードにまとめたことで、本時に設定した個の課題のできたこと、できなかったこと、次時の目標を可視化でき、思考を整理することにつながった。
- 3つの観点ごとにグループを作り取り組んだことは、話し合いたい時に話しやすいよさがあったものの、自分で考え抜く前に周りから助けをもらうことにもつながってしまった。
- 「読み取り秘伝の書」の視点の言葉を見直した時、その視点ごとの読みを深める方法を忘れてしまっていた児童がいた。  
授業実践Ⅱでは、学習に困った時、自ら周りの友達に相談しやすくなる手立て、「読み取り秘伝の書」を何度も活用しやすくする手立てを講じる必要があると感じた。
- 1時間ごとに次時の目標を決めたことで、思考が途切れてしまったり、物語の核心に迫る読み取りができなくなったりする児童がいた。  
授業実践Ⅱでは、より計画的に自分の学びを深めることができる手立てを講じる必要があると感じた。

4 授業実践Ⅱの内容

- (1) 実施時期 令和5年11月
- (2) 教材 「きつねの窓」
- (3) 実践のねらい  
場面の移り変わりの中で、登場人物の心情の変化を捉えながら読み、登場人物の立場に立って想像したことを書くことができるようにする。
- (4) 単元の流れ (8時間完了)

1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時
一斉授業		自由進度学習				一斉授業	

(5) 実践の様子

手立て① 「新・読み取り秘伝の書」で個の課題を設定

1時間目の導入時、単元の流れを説明し、「きつねの窓」の3・4・5・6時間目は、児童だけで学習を進めることを伝えると、児童は学習意欲を示した。その後、教師の範読を聞き初発の感想を書き、感想の交流をした。授業実践Iでは、物語の核心に迫る読み取りができていない児童がいたため、物語の核心に迫るために必要な単元を貫く問いを設定した。単元を貫く問いは、「中心人物の変容に関わる問い」とし、話し合いを通して、「『ぼく』は、どのように変わったのだろうか？」という問いに決まった。この問いについて、毎時間考えることで、その物語の核心に迫ることができるようになって考えた。児童は、単元を貫く問いに向かって、それぞれの視点から読みを深める単元全体の見直しをもった。

2時間目には、「新・読み取り秘伝の書」を配布した。【資料3】「新・読み取り秘伝の書」は、読む視点の説明を付けたものにバージョンアップした。また、学習に困った時、自ら友達に相談しやすくするために、グループでなく個で読み進め、今、自分が取り組んでいる内容（どの観点のどの視点か）を黒板にネームカードで示すことにした。1つの観点だけでなく追究したい観点ごとに順番に読み進めること、2つの観点を組み合わせて読み深めることもよいことにした。児童は、その説明を受けた後、それぞれ個の課題を設定した。

その後、児童は個の課題を解決するために、「新・読み取り秘伝の書」を参考にしながら、単元内自由進度学習に取り組んだ。ある児童は、「人物」の観点について、自分で読み進めた。途中、黒板のネームカードを確認し、同じ読む視点で読んでいる児童に声を掛け一緒に読み取りを進めた。また、「表現の工夫」(C1)について読んでいる時、「話のつくり」(C2)を選んでいる児童と話し合うことで、より深く読もうとする姿も見られた。【資料4】

また、ある児童は、「話のつくり」の読む視点を参考に、二、三人で話しながら課題解決に向かった。席を近づけ時折話し合い、意見交換しながら読み取りを進めた。学習を進めるにつれて、他の観点からも読むことで単元を貫く問いについて考えたいと思った児童が、私に「前回までに表現の工夫について読んでいる人と話したいのですが、黒板のネームカードだと今読んでいる視点しか分からなくて困っています。ロイロノートでみんなが今まで読み取った視点を共有してもいいですか？」と、相談に来た。私は、確かにそうだと思います、ロイロノートで共有できるようサポートした。

7時間目、授業実践Iでは拡大紙で行った学びの共有を、コラボノートを活用して行った。児童同士で読み取りについて質問し合い理解を深めることができた。また、物語の核心に迫る読み取りについては、全体で練り上げる時間を取ることで、児童の読解を助けた。【資料5】

8時間目、「あなたなら、『窓』でどのようなものを見たいですか。理由も書きましょう。」という課題に取り組んだ。児童は、自分にとっての失った大切な人などについて、見つめ直すことができた。

読みの観点	視点	説明
人物	気持ち・考え	その人物が大切にしているもの、その気持ち・考えになった理由などを読み取ることで、その人物について深く知ることができる。
	行動描写	その人物がした行動からわかる性格や、その行動をした理由を読み取ることで、その人物について深く知ることができる。
	相互関係	登場人物同士（主に中心人物と対人物）の間で、互いの関係性のこと。中心人物の成長や変化には、周囲の人物が大きな関わりを持っていることが多い。「きつねの窓」では、ほくと子ぎつねである。共通点に着目するとよい。
表現の工夫	色彩表現	色を用いた表現のこと。色に対するイメージ（白：純粋、青：清浄など）と場面の様子や登場人物の気持ちとを結び付けて読むとよい。
	比喩	ものごとの状態や様子を他のものごとにとたとえて表すこと。比喩を使うことで、表現が豊かになり分りやすくなったり、強調されたりといった効果がある。「～のようだ」「～みたいだ」のような言葉を使う「直喩」と、そういった言葉を用いない「隠喩（暗喩）」がある。
	対比	2つのものを並べ合わせて、違いを比べること。ほくと子ぎつねや、はじめの場面とおわりの場面を比べることで、より深く共通点や変化に気付くことができる。
話のつくり	主題	作者が伝えたいこと。作品の多くは、中心人物が設定され、作品の中で起こる事件によって、中心人物の心情が変容する。作品の主題をとらえるためには、中心人物の変容とその原因を読み取ることが重要である。
	題名	題名の意味を考えることで作者の伝えたいことを意識することができる。そこから主題に迫ることができる。
	ファンタジー	登場人物が不思議な世界に入り、また戻ってくるという構成のこと。一般的なファンタジー作品の多くは、不思議な世界への往来を通して、変化や成長が見られることが多い。不思議な世界がどのような意味をもち、「ぼく」にどんな変化や成長をもたらしたのかを考えることとよい。

【資料3】新・読み取り秘伝の書

- C1：「主題」についてどんなことを読み取っている？  
 C2：「ぼく」が変わった原因は、不思議な世界に入ってきた窓のぞいたことなんじゃないかなって。  
 C1：なるほど。私は「表現の工夫」について読んでいて、「昼の月を見失ったような感じ」という比喩は、青いききょうの花畑の中の白いうさぎを、青い空の中の白い月に例えて、きつねの存在を強く表現しているのかなって思った。他にもきつねの表現の工夫がたくさんあるから、主題にきつねは関わっていると私も思う。  
 C3：本当だね。一緒に「ぼく」が変わる前と変わった後の違いについて読んでみようよ。

【資料4】児童の話し合いの様子

- T：「『ぼく』は、どのように変わったのだろうか？」について話し合いましょう。  
 C1：「ぼく」は、きつねを鉄砲で撃とうとしていたのに、サンドイッチをどっさりつって渡そうとするくらいに気持ちが変わりました。  
 C2：「ぼく」は、きつねと出会う前、鉄砲を大切にしていました。けれど、きつねと出会ってからは窓を大切にするようになりました。失った人や物は戻ってこないで、大切な人や物を大切にすることを大切に変わったと思います。  
 C3：「ぼく」は、ひとりぼっちだったけれど、窓をのぞいて大切な人や物があつたことに気付くことができたんだと思います。  
 C4：そのことは、主題にもつながっていて、「失った大切な人や物は戻ってこないけれど、思い出を大切にしよう」ということを作者は伝えたかったんじゃないかと思えます。  
 C5：私は、「大切な人や物は失ったら戻ってこないから、今大切にしよう」ということかなと思えました。  
 C6：「ぼく」は、自由になったという変化があったと思います。窓をのぞいて大切な人や物に気付く。けれど、見えるけど手が届かない。手を洗ってしまい見えなくなったことで、大切な人や物を失った悲しみにとらわれなくなり自由になったと思います。

【資料5】全体での話し合いの様子

手立て② 「New・SR（自己調整）タイム」で課題を追究する時間を設定

毎時間の終末、振り返りカードに、個の課題のできたこと、できなかったこと、次時の目標を書き込んだ。単元を貫く問いは、毎時間意識して取り組めるようにした。【資料6】

本時の目標は、自由進度学習の初めの時間に全時間分計画した。計画通り進まなかったり、よりよい進め方に気付いたりした時は、計画を修正できるようにした。修正する際は、棒線で修正し、初めの計画からどう変わったか分かるようにした。児童の振り返りカードからは、計画を修正しながら学習を進めたことが分かり、学びを自己調整する姿が見られた。

授業実践Ⅰ同様、児童は個の課題のできたこと、できなかったことを振り返り、次時の目標を書き込むことで、思考を整理することができた。毎時間の振り返りカードの書き込みには、児童の学びに伴走し、学びを深めるための教師の朱書きを入れた。

自由進度学習を行った4時間の授業で導入の時間には、毎回、前時の振り返りカードに記入されたよい読み取りを広げたり、考えを揺さぶる発問をしたりした。授業実践Ⅰでは、教師がずっと見守り続けたものの、物語の核心に迫る読み取りについては、自由進度学習後の全体で確認する授業の時にしか読み深められなかったからである。児童だけで物語の核心に迫る読み取りができないものかと悩んだ。しかし、このことで毎時間、単元を貫く問いからそれずに学び続けられたので、物語の核心に迫る読みについて学びを深めることができたと考えた。

単元をつらぬく問い ぼくはどのように変わったのだろうか？

「個の課題の追究」の振り返り

時	本時の目標	できたこと・できなかったこと・次時の目標
1	人物の観点を中心に気持ち、考えを調べたい。窓は、その人のどういった思いで、見えてくるものが出るか。	<p>理由 きつねも亡くしたお母さんが、窓にうつったりぼくも、死んだ妹などが窓から見えたから。</p> <p>ぼくの気持ちを語り取れた。また、まどにうつるものを語り取れた。窓にうつるものは何か、ここに書いてみよう。</p> <p>人物の考えが読み取れなかった。その人の亡くした大切なことが窓にうつる。</p> <p>次回は表現の工夫の色彩表現などを語り取りたいです。次時の目標も立てられましたね。</p>
2	表現の工夫の色彩表現などをまとめて調べたい。キキウの花言葉など。	<p>キキウの花言葉に「愛のめしめし」という意見があった。これは、ぼくの死んだ家族への愛を表していると思った。そして、青色は、悲しさを表しているからきつねもとても悲しいことがわかった。ぼくは、まだ心で気持ちをかたがたに思っている。</p> <p>次回は、もう一度、人物の気持ちを調べたい。音は悲しめで最後にくれたから窓心へと変わったように読み取ろう。</p> <p>どうして、きつねが鉄砲を選んだのかについて、おもしろいと思う。考えた。理由は、最初は、ぼくに、ぶくしゅうをしに来たのかと思ったけど、きつねもぼくが一人ぼっちと気づいて、鉄砲だけにしたのかと思った。今回は、きつねが、最初と最後で変化があったことがわかった。また、ぼくはきつねと一緒に変化があった。次回は3時間で学んだことをまとめて読み取りたい。</p>
4	3時間で学んだことをまとめて読み取りたい。↓ 人物・気持ち・考え	<p>ぼくは本当に大切にすべきものがわかった。理由は、最初に鉄砲を、大事に思っている。もう一度家族に会いたい。窓は、鉄砲を、おぼえてやっていた。お母さん、窓のつくり方を教えて、ぼくは、母達に会えたから、本当に大切にすべきものは家族だと気付いた。</p> <p>ぼくは、もう一度、きつねに会いたいと思った。</p> <p>「ぼくは、本当に大切にすべきものが分かり、変わったんだね。」</p>

単元をつらぬく問いの答え

きつねが「ぼくに窓をあけたこと」ぼくは、大切にすべきものが「家族や大事な人」と気づき、前向きに変化した。

↓

また、会いたいと思っただけで、大切にすべきものに気付くことができたんだね。

修正した部分

新たな計画内容

【資料6】単元を貫く問いからそれずに学び続けていることが分かる（下線部）児童の振り返りカード

(6) 実践の成果 (○) と課題 (●)

- グループでなく個で読み進めるようにしたことで、困ったことがあったら自分で解決できるように、自分から周りの友達に相談する姿が見られた。
- 今、自分に取り組んでいる内容 (どの観点のどの視点か) を黒板にネームカードで示したことで、話しながら学習を進めたい時に、自分から声掛けしやすくなった。
- 読みの3つの観点を全て取り組んでもよいことにしたことで、同じ観点での読みを深めるだけでなく、違う観点を選んだ児童と話し合いより深く読もうとする姿が見られた。
- 振り返りカードの本時の目標の部分を、自由進度学習を始める前に全時間分計画し、計画通り進まなかったり、よりよい進め方に気付いたりしたときは、計画を修正できるようにしたことで、計画的に自分の学びを進める力を付けることができた。【資料7】
- 単元の最初に児童と単元を貫く問いとして「中心人物の変容に関わる問い」を決めて、この問いを毎時間考えることで、その物語の核心に迫る読み取りについて深く考えることができた。
- 毎時間振り返りカードのよい読み取りを教師が学級全体に伝えたことは、自由進度学習中に単元を貫く問いからそれずに学び続けることにつながった。
- 黒板のネームカードでは、今読んでいる視点しか分からないので、ロイロノートと併用するなどよりよい方法を考える必要がある。
- 教師の関わりをさらに少なくし、より児童だけで、単元を貫く問いからそれずに学び続けられる方法を今後も考える必要がある。

	1時	2時	3時	4時		1時	2時	3時	4時
C1	人物	表現の工夫	話のづくり	全ての観点	➔	C1	人物	表現の工夫 話のづくり	全ての観点 全ての観点
C2	話のづくり	話のづくり	話のづくり	話のづくり		C2	話のづくり	話のづくり	表現の工夫 人物
C3	人物	人物	表現の工夫	表現の工夫		C3	人物	人物	人物 表現の工夫

【資料7】 3人の児童が自由進度学習前に設定した個の課題と最終的に取り組んだ個の課題

5 おわりに

「先生、前の授業を振り返って友達と話して、食品ロスのこの地域の取り組みについて紹介したいと思ったのですがどうですか？」総合的な学習の時間、SDGsについての調べ学習で、ある児童が私に声を掛けてくれた。

ある児童は、自由進度学習を他教科でも取り入れたいと提案してくれた。自分で学びを振り返ることで、本当に分かっているかどうか確認できるからよいそうだ。

また、ある児童は、自分で考えたり友達と話し合ったりして、授業時間の最後まで、よりよい考えはないか学び続けられるようになった。

実践後には、児童に自由進度学習についてのアンケートを行った。「自由進度学習がよかった、楽しかった」と答えた児童は28人中23人、「自由進度学習を通して学びが深まった」と答えた児童は28人中25人という結果になった。私は、自由進度学習は、児童の学習意欲を引き出し、児童が学習効果を感じる学習方法であると感じた。

「自分でやり遂げると子どもはうれしい。」名古屋市教育シンポジウムでの、奈須正裕氏のご講演で聞いた言葉である。「教師は、情報を開示し、学ぶ環境を整備し、学びを見取り、支援をする。」このことを大切に、これからも研修に励みたい。

今回の実践は、自ら個の課題を設定し、自己調整して課題解決に向かう児童の姿につながった。しかし、今読んでいる視点の共有方法や、教師の関わりをさらに少なくし、児童の力で単元を貫く問いからそれずに学び続けられる方法に課題が残った。

今年度は、単元を貫く問いに向かって自分の読む視点を設定すること、自分の読みを試行錯誤して単元を貫く問いの解決に向かうことの2点に重点を置いて、実践に取り組んでいる。今読んでいる視点は、ロイロノートで共有したり、単元の導入の時間の一斉授業で、児童と共に「ルーブリック」(評価基準表)をつくったりして、手立ての改善に取り組んでいる。今後も先行研究から学び、物語を読むときや他の学習でも「自律した学習者」を育てていきたい。